



北欧切手研究会創立50周年記念

北欧切手展

NORDEX 2025

会期 2025年11月29日（土）・30日（日）

会場 切手の博物館 3階スペース1・2

主催 （公財）日本郵趣協会 北欧切手研究会

ごあいさつ

『郵趣』1974年7月号の会員ページに、一つの小さな募集広告が掲載されました。これが、北欧切手研究会が誕生するきっかけとなった、北欧切手収集家グループの結成を呼びかける最初のものでした。

その後、数度の準備会を重ね、1975年4月にJPSの正式な部会の一つとして「北欧切手部会」が発足し、以後、名称は「研究会」へと変更されましたが、例会の開催、会報の発行を続け、今年で結成50周年を迎えることとなり、それを記念してミニベックスを開催いたします。

専門コレクションあり、カタログ・コレクションあり、ポストクロッシングで収集したコレクションあり、50年の節目に相応しい多彩な内容となりました。

ごゆっくりと、会員の収集成果をご覧くださいければ幸いです。

北欧切手研究会



黒文字：北欧理事会加盟国・地域

1975年 4 月

- ・ FINDS（仮題）準備号 8 ページ
- ・ 北欧切手部会発足

1975年 6 月10日

- ・ FINDS創刊号 本文12・付図2 ページ

1976年 5 月 5 日

- ・ FINDS 6 号 会費値上げ（1000円→1500円）、75年度末会員数73名

1976年12月25日

- ・ FINDS 9 号 郵趣用語を中心としたスウェーデン語・英語・日本語・ノルウェー語・デンマーク語対訳表（全誌面を使い特集）

1978年 5 月 5 日

- ・ 大阪例会開始（フジスタンプ大阪店集合後、地下の喫茶店）

1978年10月14日

- ・ FINDS20号 20号記念特集「私と北欧切手」

1979年 2 月10・11日

- ・ 北欧ミニベックス'79開催（郵趣会館）参観者数282名

1979年 5 月12日

- ・ FINDS23号 1978年度決算30,515円赤字

1980年11月

- ・ ジャベックス80で『FINDS』銅賞

1981年 1 月

- ・ 『フィンランドの郵便と切手』刊行（郵趣会館ショールームでも一般販売）

1981年 9 月

- FINDS36号 特集「北欧の消印」

1981年10月10日

- ・ 東京国際切手展'81特別例会 パレスホテルに北欧の著名収集家3人を招く

1984年 3 月

- ・ FINDS50号 特集「北欧のステーション」

1985年 3 月23・24日

- ・ 北欧切手部会創立10周年記念ミニベックス NORDEX'85 開催（郵趣会館）

1987年 6 月

- ・ スタンプショウ広島87へ協力 スウェーデン切手の特集展示

1991年 3 月23・24日

- ・ 北欧切手部会創立15周年記念ミニベックス NORDEX'91 開催（郵趣会館）

1992年 7 月29～8 月 9 日

- ・ デンマーク・フェアの切手展に協力 船橋西武百貨店10階アートギャラリー 12日間で4157人参観、8名12作品

1995年 8 月26・27日

- ・ 北欧切手部会創立20周年記念ミニベックス NORDEX'95 開催（郵趣会館）参観者数307名

1996年

- 会員数155名

1999年 9 月 4 日

- ・ 正会員大会（広島）で優良部会表彰

2000年 4 月29～5 月 1 日

- ・ スタンプショー（浅草）で北欧切手部会25周年記念 NORDEX2000 開催

2005年 2 月11～13日

- ・ 北欧切手部会30周年記念ミニベックス NORDEX'05（切手の博物館）参観者数375名

2009年10月

- ・ FINDS200号

2015年10月24～25日

- ・ 北欧切手展 NORDEX2015 開催（切手の博物館3階）

2017年 4 月

- ・ JPSの組織改変にあたり研究会へ移行

2023年 2 月11～12日

- ・ 北欧切手展 NORDEX 2023 開催（切手の博物館3階）参観者数168名

フレーム 2-3

ムーミン谷へようこそ

櫻井 多加志

皆さん、ムーミンはよくご存じでしょう。フィンランドのトーベ・ヤンソン（1914-2001）が書いたシリーズです。

日本では、アニメも作られ、親しまれています。

切手も、フィンランドで何度も発行されているほか、日本でも何回も取り上げられています。

ムーミン切手やそれにまつわるものを展示します。



フレーム 4

切手の窓から見る北欧の自然

HirokoDaisy

わたしはポストクロッシングという世界中のユーザー同士でポストカードを送りあうプロジェクトに参加しています。ポストクロッシングは誰でも参加できます。

このプロジェクトのとても興味深いところは、アナログとデジタルの融合です。

ポストカードを送るというアナログなところ。ネット上でポストカードを送り

たいとボタンをクリックしてランダムに送り先が表示されるところ、そして、ポストカードが到着したことをインターネットで報告して相手に返事を書くことができるデジタルなところ。

現在、簡単に外国にいる友達とのメッセージのやり取りができます。しかし、このポストカードを送るというリアルでその人を感じることができる体験はとても興味深いと思います。

そして、ポストクロッシングにはプロフィールを書くところがあります。その人の好みや希望が書いてあります。その希望に沿って喜びを世界中の人と共有することもこのプロジェクトの楽しみでもあると思います。

ではなぜ私は切手に興味を持ったのか？

切手はポストカードを送るのに必要な大切なアイテムです。そして、会員の多くは切手が好きだということに気が付きました。切手は小さな絵画の様に美しく、その国の良さや特徴を表しています。

この小さな切手に多くの意味がある事に気が付いたときに、わたしは切手沼にハマりました。

ポストカードを送る際、切手に消印が押されます。そこも注目すると、大きな沼となってわたしたちはハマっていきます。

わたしは近年送られてきた北欧の切手やポストカードをご紹介します。

1 北欧切手との出会い

スウェーデンに住んでいる人との交流から北欧の国々に興味を持ちました。

スウェーデンは日本から離れていて、私にとってはあまりなじみがありませんでした。だからこそ、新しい世界を新しい友達を通して知ってみたいと思いました。東京はめったに雪が降らないです。一方で、北欧の国々は雪と関係が深く社会保障も行き届いている印象でした。イメージと実際はどう違うのかを歯科医療を通して質問してみました。

2 送られてきた切手たち

私は花や鳥そして食べ物の切手に興味が 있습니다。北欧の国々の切手は値上がりしていると聞きます。

価格に反映されているのか、美しく素敵な切手が多いと思います。

3 空と青の切手

また、私の好きなテーマの切手は空や青です。フィンランドの切手のきれいな青を感じ取ってください。また夕焼けのような朝焼けのような切手もとても美しいです。さわやかな気分させてくれる切手をご覧ください。また、オランダの切手の青色もお楽しみください。

4 北欧の国々の自然

わたしにとっての北欧切手の魅力は自然の豊かさです。雪や植物、動物や鳥など切手から北欧の国々の生活を想像することができます。人々にとって自然は身近な存在なのだと感じました。

5 おわりに

子供向けのテーマの切手やかわいらしい切手も北欧の国々から送られてきました。様々な世代が楽しめる切手が発行されているようです。近年の切手の魅力を感じてもらえたら嬉しいです。

私はこの活動を通して、小さな長方形の中に多くの夢やメッセージが詰め込まれていることに気づきました。

切手は面白い！どんなものか、郵便局に行ってみようかな！日本にはどんな切手があるのかな？外国の切手はどんな形なんだろう？そのように疑問や知ってみたい！と思っていただけたら、幸いです。

フレーム 5

オスカー 2 世凹版 5 エーレ・10 エーレ

吉田 育生

国王オスカー 2 世（1829－1907）の肖像を図案化した切手は 1885 年 1 月発行の 10 エーレ凸版印刷にはじまる。

1891 年になり凹版印刷に切替わる決定がなされ、5 エーレを皮切りに 1 クローネまでの 11 種類が順次発行された。

スウェーデン最初の凹版印刷で 100 面シートの切手 1 枚ごとに王冠透かしが入っており 1911 年発行のグスタフ 5 世シリーズ発行まで約 20 年間使用された。特に国内ハガキ適用の 5 エーレ、書状用の 10 エーレ切手は発行数が多かった。

20 年間で 5 エーレは 72,300 万枚、10 エーレ 112,700 万枚が長期間にわたり発

行された。そのため 5 エーレには黄緑色から深緑色まで、10 エーレに薄いピンク、紅色、茶味赤などの刷色のバラエティがある。

国内向け郵便物の切手なので使用例は限られているが、切手自体には印刷ずれ、版欠点、傷、逆透かし、などのバラエティが多くあり確認できるものを展示している。

使用された消印の種類も多くすべて揃えるのはかなり困難であるが、安価な切手なので 1 点ずつレアな消印や鮮明な消印を揃えて展示してみた。

北欧切手研究会へのお誘い

本日は、北欧切手研究会創立 50 周年記念切手展をご参観下さいまして、ありがとうございました。

北欧切手研究会は、切手の博物館での定期例会と会報の発行を主な活動としている全国組織の北欧切手収集家の集りです。

会報では、様々な切手やコレクションの解説、新切手の紹介を主な柱としており、例会では、切手やリーフを回覧し、実物を見ながら北欧切手の知識を高めています。

よく勘違いされるのですが、参加には特に高度な知識を必要とするわけではありません。「研究会」とは名乗ってはいますが、実態は普通の切手愛好家の集りです。1 種 1 枚のカタログコレクションの収集家や、自分の好みの切手だけを集めている方大歓迎で、そうした収集家の参加を多いに希望しています。

本研究会に興味を持たれましたら、ぜひ一度、例会にご参加いただけると嬉しく思います。

詳しくは、下記掲載の連絡先まで、メールにてお問い合わせください。

例会開催日：1・3・5・7・9・11 月の第 2 日曜日 14 時 40 分～16 時 10 分。

場 所：切手の博物館 3 階会議室

連 絡 先：大澤修（メールアドレス：osamu_osawa_0927@yahoo.co.jp）

スウェーデン オスカーII世シリーズ 1885-1911

五島 直

スウェーデン切手と言えば多くのコイル切手で知られていますが、今回の展示では19世紀の4方目打ち時代のセミクラシック切手として親しまれているオスカーII世シリーズを展示します。

スウェーデンでは1885年に10 öreに値下げされた国内基本料金用に、初めて国王オスカーII世の肖像を図案とする額面10 öreの普通切手が凸版印刷で発行されました。その後、偽造防止のために裏に青い郵便ラッパが印刷された用紙が使用されました。しかし凸版印刷では肖像図案の見映えが悪く、1886年より初めて凹版印刷導入が計画されました。4年以上にわたり凹版印刷技術の醸成と試験印刷が繰り返された後、1891年からスウェーデン最初の凹版印刷切手がUPU勧告の3色の額面を含む9額面で新たに王冠透かし入りの用紙に印刷され発行されました。1911年になって、20öreと25öre切手が不足したため後続のグスタフ V世シリーズ向けに用意されていた透かしのない紙で印刷されました。

本展示では、このような発行経緯に沿って製造面と使用面から本シリーズの特徴を俯瞰する展示としています。製造面では、製造時期による用紙と色調違いを基本分類として、ブルーフやスウェーデン初のハンドメイド切手帳に加え、印刷技術の未熟に起因する特徴的な版バラエティを展示しています。使用面では、バルト海と群島に囲まれたスウェーデンならではの鉄道や船郵便の使用例を額面別展開の後に体系的に示しました。また、本シリーズの発行された時期はUPUの創設とともに現代的な郵便制度への移行過程にあり、その変化を示す使用例や、経済発展とともに普及し始めた初期の企業広告封筒や民間企業に導入された穿孔切手の例、感染症の広がりに伴う検疫郵便、中央アジア探検家スベンヘディン宛の使用例など社会的背景を映し出す使用例を示しました。

今回の展示はJAPEX2025の出展作品をもとに一部再構成したものです。



参考図版

オスカーII世凹版印刷用母版からのブルーフ。

額面部分が空白になっている。

オスカーII世の承認サイン入りで、日付は1890年4月28日。

(画像提供：スウェーデン郵便博物館)

フィンランドM63 シリーズ ライオン紋章図案 1963-1974

秋山 正明

M63 シリーズは 1963 年 1 月 1 日に行われた通貨切り下げに伴い、M54 シリーズの額面表示を変更して発行したのが始まりです。以後 1974 年までにライオン紋章図案 17 種、風景や建築物などを描く大型図案 21 種が発行されました。またこのシリーズから自動販売機用の切手帳が本格的に発行されています。

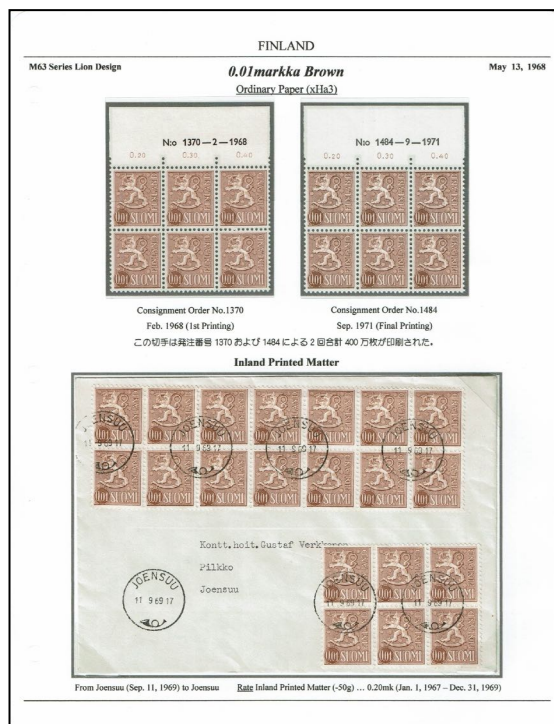
本展示では対象をライオン紋章図案に絞り、額面順にタイプ違い (Type I と Type II)、印刷機 (WIFAG と STIF) や印刷用紙 (普通紙と蛍光紙) の違いを分類、展示しています。

自動販売機用切手帳は、耳紙に印刷された管理番号や裁断用ガイドマーク、表紙などのバラエティを発行順に展示しました。比較的時代の新しいシリーズですので多くのバラエティは安価に入手でき、大型図案も含めれば奥行きのある収集対象と言えます。

本展示がその魅力の一端をお伝えできれば幸いです。



郵便為替受領書使用例



フレーム15

フェロー諸島

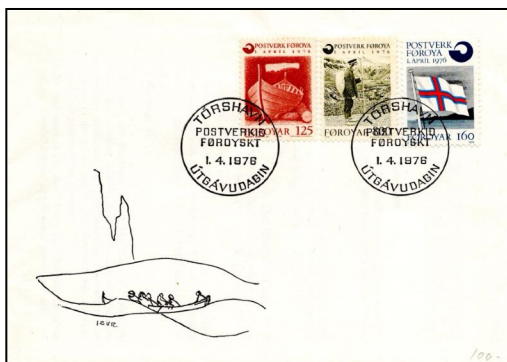
大澤 修

フェロー諸島はスコットランドのシェトランド諸島及びノルウェー西海岸とアイスランドの間の北大西洋に浮かぶデンマーク自治領の大小18の島々で、面積1,399km²は静岡市程の広さです。人口は54,720人、中心都市はトースハウン(Torshavn)。

フェロー諸島独自の切手としては1919年1月に4オーレを半分に切った切手(バイセクト)を使用したのが最初です。その後デンマーク切手への加刷切手を使用され、再び独自の切手を発行したのは1975年1月で、1976年4月に郵政がデンマークから独立しました。

今回は1975年より1986年発行迄の切手を展示しています。

尚、本作品は北欧切手研究会に貢献された故長野行洋氏の作品をベースにして手を加えたものです。



フレーム16-20

デンマーク R.B.S. 切手

原田 肇

デンマークでは、1851年4月、全国均一料金、前納として4 R.B.S. 切手が発行され、近代郵便制度が成立しました。

約1ヶ月遅れて発行されたのがコペンハーゲン市内便に使うローカル切手としての2 R.B.S. 切手です。

この2つのR.B.S. (Rigsbankskilling) 切手を、印刷毎に分類整理し展示いたします。



参考図版
デンマーク最初の切手

本作品は、フィンランド共和国の歴史を概観するオープン郵趣作品です。

競争展ではJAPEX2018で金銀賞、FILANIPPON2021では大銀賞を頂戴することができました。今回、国際展出品時の英文記載としています。

作品は以下の6章の構成となります。

第1章. スウェーデン時代(共通歴1323年-1809年)

第2章. ロシア時代(1809-1917)

第3章. 独立とフィンランド共和国の成立(1917-1923)

第4章. フィンランド・ソビエト連邦戦争(1939-1945)

第5章. 第二次世界大戦後(1945-1995)

第6章. 日本・フィンランド関係史

主な展示品は、以下となります。

第44リーフ フィンランド・ソビエト連邦戦争中のソ連プロパガンダポスター

第68リーフ 旅順要塞陥落後、乃木希典直筆葉書

第71リーフ 義和団事変 柴五郎直筆葉書

これまでご指摘いただいた改善目標では、「テキストを充実させること、全体にリーフの白地が目立つ。」「単片、初日カバーの多用は避けるべき。」「郵趣品も非郵趣品も、できるだけ博物館級の最高の品を揃えていくという考え方を推奨したい。」

等となりますが、今回も課題を残していると言わざるを得ません。

同国の独立までの困難とその後も続いた亡国の危機を克服した歴史をスケッチする作業から、大陸小国家の地政学的宿

命を克服して祖国の独立を貫いた、政治家の優れたリーダーシップを読み取ることができます。

白い將軍と呼ばれた救国の英雄、G.E マンネルハイムは言います

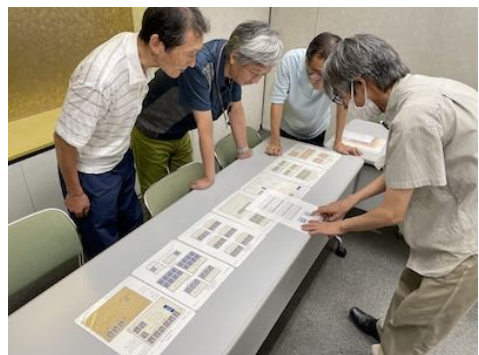
「自国すら守れない民族を他国が助けてくれるはずがない。もし、助けてくれることがあるなら、何か別の野心を持っているだけのことである。従って、大国に頼り切ることは大国に逆らうのと同じくらい危険である。」

地政学的条件の異なる国に生まれた私にとっても、金言であると受け止めています。

ある日の例会風景

例会では、会務報告や話し合いが終わると、写真のように切手の解説が始まります。

この日は、フィンランド通常切手の用紙バラエティのほか、スウェーデンのオスカーⅡ世通常切手、外国の風景印の話を聞きました。



グスタフVI世 通常切手シリーズ

水村 伸行

1951年から発行が始まったグスタフVI世通常切手シリーズは、日本切手で言えば、昭和すかしなし～第3次ローマ字入り切手の時代に発行されたシリーズです。日本のこの時代の通常切手はシート、切手帳、コイルの3形態で発行されていますが、本シリーズにはシート切手が存在せず、全ての切手がコイルと切手帳のみで発行されています。

このように長期間に渡って発行された本シリーズは、印面の特徴によってタイプⅠ・Ⅱ・Ⅲに分類され、これがこの切手の基本分類となります。

展示では、この基本分類をベースにコイル、切手帳ともに未使用で本シリーズの概要を紹介することを柱とし、特にバラエティが豊富な機械販売用切手帳では、製造面のバラエティを中心に展開したところが、本作品の大きな特徴となっています。

このため、5フレーム（80リーフ）という展示範囲の中では、使用例の紹介までは示せず、使用例（カバー）が著しく少ない作品になっていることをご了解ください。



切手帳裁断前の復元

グスタフVI世 通常切手シリーズ 1951-1972

スウェーデン国王であったグスタフ6世を囲った通常切手シリーズは、1951年から20年以上にわたり発行され、メインシナンバーだけでも39種を数えるロングシリーズです。
また、この間に基本料金だけに限っても、郵便料金が4回も改正されています。
切手の分類は、その特徴から下記に示すタイプⅠ～Ⅲのグループに分類され、これは発行時期ごとのグループとしてまとまっています。



グスタフVI世時代の郵便基本料金と印面タイプ表

改正日	1951年 6月1日	1952年 6月1日	1957年 7月1日	1962年 7月1日	1964年 7月1日	1967年 1月1日	1969年 3月1日	1971年 7月1日	1972年 10月1日
国内宛	普通 20 着付 25		30	35	40	45	55	65	
スウェーデン国外宛	普通 20 着付 25		30	35	40	45	55	65	
海外宛	普通 20 着付 30	25		50	60	70		85	
印面タイプ	Ⅰ		Ⅱ						

(料金単位：örs)

Gustaf VI 40 öre 青色 切手帳 Type III
1965年11月2日

表紙タイプV・II

【実用版配置図】

実用版は横向き

シリンダー番号1 逆マウント シリンダー番号2

フレーム31-32

スラニアに魅せられて

横山 宣子

前回の出品に続き、スラニアの切手を紹介致します。

まだまだ未完成ですが、余りにも発行枚数が多く、知れば知るほど奥行きが深く面白い半面、難しく多くの方に助けられています。

特にポーランド切手研究会の会長様に

助言を頂き、たくさんの切手を頂いて大変感謝しています。

スラニアの人物像、切手に対する思いが伝わり、その謙虚な態度には教えられることも多くあり、よい勉強となります。

フレーム33-35

m/75 Coat of Arms

櫻井 多加志

フィンランドは1975年に、それまでのLion type(m/54)に代えて、紋章(Coat of Arms)を描いた低額面普通切手シリーズ(m/75)の発行を始めました。この図案は、郵便料金改定に合わせて、郵政民営化の1990年まで新額面をほぼ毎年発行したほか、郵政民営化後もユーロ導入まで一部額面の増刷、販売を続けました。

100面シートおよび切手帳が発行され、印面、用紙、目打のバラエティがあります。切手帳は額面を組合せて14種類発行されました。

同図案の葉書も発行されています。

今回の展示では、額面ごとのバラエティと使用例を紹介します。



「北欧切手研究会創立50周年記念 北欧切手展 NORDEX2025」作品解説目録

発行：（公財）日本郵趣協会北欧切手研究会

発行日：2025年11月29日

代表世話人：大澤修（メールアドレス：osamu_osawa_0927@yahoo.co.jp）

編集：水村伸行